

土佐さきがけプログラム グリーンサイエンス人材育成コース（修士課程） カリキュラム・ポリシー

グリーンサイエンス人材育成コースでは、化学を基盤とし、環境に配慮した次世代型産業の技術・開発・学際研究を通じて、国際的に通用する高度な専門知識や技術を身につけた環境問題・資源問題などの解決に貢献できる人材を育成することを目標とし、ディプロマ・ポリシーを設定している。このディプロマ・ポリシー達成のため、カリキュラムを次の方針により編成し実施する。

【教育内容】

化学の基礎を修得したうえで、研究を通して化学者としての技量を高めると同時に、科学者としてのバランス感覚を養うために、学士課程・修士課程を通じた6年一貫のカリキュラムを編成している。

修士課程では、基礎データを集積し修士論文作成を視野に入れた研究活動を行うと共に、「海外インターンシップ」や「学術論文作成セミナー」など、国際的に活躍できる高度な科学者・技術者を養成するための科目を配置する。

【教育方法】

（科目履修）

履修すべき授業科目は、指導教員の指導を受けて定めるものとし、その修得すべき単位数は30単位以上とする。

化学研究に従事するための先端的知識、研究手法、プレゼンテーション手法、化学英語能力を涵養するために以下の科目において授業を実施する。「GS ゼミナールⅠ」、「GS ゼミナールⅡ」において、ゼミナール形式の授業で先端的知識、プレゼンテーション手法、化学英語能力を習得させる。「学術論文セミナー」において、化学研究分野の最新の研究動向を把握して自身の研究成果の国際的な位置づけを明確し、さらに科学的な思考能力を修得させる。「海外インターン」において、海外の大学・研究所に赴き1か月間から3か月間の間、海外研究者とコミュニケーションをとりながら研究を推進することで、国際会議での発表並びに国際的に活躍できる素養を身につけさせる。「GS 特論」において、自身の研究成果の位置づけを現代社会の諸問題に関連付けて理解し、研究を展開する能力を身につけさせる。「GS 特別研究」を通して、合成、分析、解析などの化学に関する最新研究手法を修得し、自身の研究成果の位置づけを現代社会の諸問題に関連付けて、その解決に向けて研究を展開する能力を身につけさせる。

（研究指導）

GS コースを担当する教授、准教授、講師または助教が、研究計画の立案およびその遂行ができるように上記の授業科目を補完するサポートを行う。また、学会発表や修士論文作成に向けた支援を行うとともに、研究者としての倫理観を身につけさせる。

【教育評価】

(学修評価)

学修の評価にあたっては、本学が定める成績評価基準に基づいて評価を行う。各科目の学修成果は、授業科目の到達目標の達成度をシラバスに記載されている評価方法によって、筆記試験、レポート、発表、授業への参加度、演習・実験成果等で評価を行う。

修士論文の評価について、本コースの論文審査規定に基づいて評価を行う。学位の授与にあたっては、学位授与の方針に基づき、論文審査（課題設定、先行研究の検討、適切な研究方法、独創性、研究倫理の履行等の観点からの評価）、関連科目の到達度評価、最終試験（筆記あるいは口述）により総合的に評価する。

(カリキュラム評価)

学生の学修成果や専門領域の研究動向、学外（学会、学術論文、外部評価委員会）からの評価、修了生アンケートの結果を参照しつつ、カリキュラム評価を行い、改善を行う。